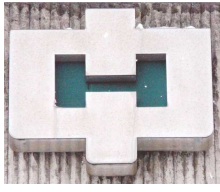


教育目標 「豊かな心で たくましく 自分の人生を切り拓く 生徒」

重点目標 「豊かな心 確かな学力 健やかな身体」



朝日子

佐渡市立畑野中学校 学校だより

平成29年 1月31日(火) No.21

著・編 校長 加藤雄一郎 (TEL 66-2058)

佐渡の魅力 ことばの効力 みんなで協力

インフルエンザが先週流行り、1年生が3日間の学年閉鎖をしました。ちょうど欠席が出始めた23日(月)、新潟日報社主催の「ことばの学校」が行われ、新潟大学准教授の豊田光世様から出前授業をしていただきました。ただ話を聞くだけでなく、グループワークを入れてもらい、全校生徒を縦割りにした6人グループで、佐渡の魅力伝える「ことば(キャッチフレーズ)創り」をしました。その場で組んだグループでしたが、3年生が温かくリードし、全学年が関わりながら楽しく取り組みました。

最初は「佐渡島で連想する言葉を100個書きだそう」というお題をもらい、多いグループで70個くらい挙げていました。その後、5つに絞り、最後はキャッチフレーズにして発表しました。言葉をつないだり、言葉のイメージを膨らませたり、複数の言葉を総括する形容詞や名詞を考えたり、協力して創っていました。「即席の異学年グループにもかかわらず、こんなにことばを挙げ、発表までこぎ着けたのは素晴らしい」と豊田先生から誉められました。この時の記事が1月24日付けの新潟日報に掲載されましたので、紹介します。

言葉を通して豊かな心を育むキャンペーン「ことばの学校」(新潟日報社主催)の出前授業が23日、佐渡市の畑野中学校で開かれた。新潟大学朱鷺・自然再生学



佐渡の魅力表現しよう

豊田新大准教授 畑野中で出前授業



豊田准教授は、全国の自治体のユニークなPRポスターを例に、地域の魅力を表現する言葉を紹介。「トキや金山などのステレオタイプにはまらない、新しい発想で佐渡の良さを伝えるキャッチフレーズを考えてみよう」と呼び掛けた。



講演する新潟大の豊田光世准教授「23日、佐渡市の畑野中」

「おいしい佐渡の食の基になっっている、おいしい空気を観光客に知ってもらいたい」と込めた思いを発表。

豊田准教授は「佐渡が持つ可能性をいろいろな言葉から探ってほしい」と語った。

2年の中村天さん(14)は「何かを相手に伝えるのはとても難しく、言葉の偉大さを知った」と話した。

皆さんのアイデアを聞かせてください!

佐渡の魅力ってなに? どう伝える?
いろいろな「ことば」を考えてみよう

心肺蘇生法学ぶ いざという時、役に立つ

普通救命講習会：救命入門コース を2年生が26日（木）に受講しました。佐渡市消防本部救急担当の本間さん、高津さんから心肺蘇生法の意義や方法の説明を受け、AEDの実習に挑戦しました。海で溺れて心肺停止の人を助ける映像で、必死に心肺蘇生法を施し息を吹き返したシーンには感動しました。心臓は止まっても無意識に息をしようとする、人体の仕組みの神秘さと生命力も感じました。

AEDの実習では、胸骨圧迫や声かけの練習を行いました。できれば使いたくはありませんが、いざという時、躊躇せず救済処置ができるかどうか、正に運命の分かれ道です。

2年生は救命救急の大切さを知り、いざという時、自分から応急手当をしたり、AEDを活用したりしたいと感想を書いていました。授業後に書いた感想や質問の中から、2点紹介します。

いざという時できるように

齋藤

応急手当がどのくらい大切なのか、やるかやらないかの違いが大きいということが分かりました。どの部分でどこを押すのか、何のためにやるのかなど、それとAEDもどのように使うのかも分かりました。周りの人にも声を掛けたり、AEDを使う時は周りの安全確認をしたり、普段やれることもあると思うのでそこからやっていき、いざという時にもできるようにしたいです。

1つ質問です。AEDを使う時に、7歳未満とか歳が分からない時には、AEDのパットのどちらを使えばいいのですか。教えてください。

A. 7歳未満と分からない時は大人用を使います。ただし、赤ちゃんなどははっきり分かる時は、子ども用を使います。子ども用は大人には使えませんが、大人用は子どもにも使えます。子ども用では大人に効果がないからです。

(石川養護教諭より)

助かる可能性

細野

今日の授業を聞いて、佐渡では救急車が現場に着くまで平均約10分かかると知りました。

私はAEDはどんな時に、どのように使うのがよく分かりませんでした。AEDが心臓をいったん止めるための機械ということも分かりました。AEDを実際に使ってみて、使い方もよく分かりましたし、機械が指示を出してくれて電気ショックが必要かどうか分かるということも知りました。

ドラマの中で心臓が止まったシーンを見ることがあるけれど、AEDを使用し、4つのパターンをしっかりと周りの人がやれば、助かる可能性が上がるということが印象に残っています。

佐渡では、年間約120人がAEDを使用することですが、助かるのは1・2人だと聞いて少し驚きました。使い方があまり分からない人がほとんどなんだと思いました。今日は使い方を学べてとてもよかったですと思います。



全校で一番の読書家は誰？

広報委員会 による生徒朝会で、活動紹介や新刊紹介がありました。また、本の貸し出し状況の報告があり、各学年の利用冊数（2学期分まで）の多い人ベスト3が発表されました。

1年生	宇治さん	42冊	2年生	金子さん	5冊	3年生	松田さん	11冊
	生田さん	23冊		鈴木さん	4冊		佐藤さん	10冊
	藤原さん	10冊		深井さん	4冊		小田さん	9冊

学年によってこんなに差が出ました。学年別に合計すると、1年生が120冊、2年生が29冊、3年生が62冊という結果でした。3学年の中で、断トツ1年生に読書家が多く、一人当たりの冊数も多いです。

「読書は知識や教養を広げたり、心を豊にさせてくれる魔法です。」まず、興味がある本の1ページを開いてみませんか。本は人の人生に影響を与える友にもなります。特に学生時代の読書はそうです。

